

## ナガフトヒゲナガゾウムシの記録 2 例

永幡 嘉之

筆者は本誌前号において、但馬におけるナガフトヒゲナガゾウムシ *Xylinada striatifrons* の採集記録を報告した<sup>1)</sup>。その文中に、以下のような表現があった。

「高校生だった1988年7月中旬に、西脇からほど遠くない三木市大村で、夕方コナラの新しい倒木に集まっていた十数頭を採集したことがあった」

「かつて関宮町出合の土場で、夜間に同行者が本種を採集した経験がある」

それらの標本は、当時蝶のみを標本にしていたこと、また、間に引っ越しがあったことなどから、きちんと管理できておらず、現存しないものと諦めていた。ところが、1995年になって、未整理の箱の中から雑甲虫の標本が出てきた。もしやと期待して探してみると、状態はよくないものの、ナガフトヒゲナガゾウムシが混じっていたのである。上記の2例とも、こうして日の目を見ることになった。懐かしい標本を、ここに記録しておきたい。

### 1. 兵庫県三木市大村, 4♂♂ 2♀♀, 22-VII-1988, 永幡嘉之

コナラの新しい倒木に静止中の個体を、曇天の日中に採集した。前号に記した文章には若干の記憶違いがあり、7月中旬の夕方に同じコナラ倒木で多くの個体を発見したことがあったが、このときは採集はしなかった。すでに薄暗くなっていたが、交尾行動をとる個体や歩行中の個体が十数頭みられ、活動中であったことを記憶している。同地ではこの時以外に本種を見かけたことはない。

### 2. 兵庫県養父郡関宮町出合, 1♀, 5-VIII-1987, 松本正孝

関宮町出合のチップ工場の土場は、甲虫屋の間では有名であったが、残念ながら1993年からは材を積んでいないようである。ここで夜間に広葉樹の材上にいたものを同行者が採集した。

この時、筆者はまだ中学生であった。「変わったコクヌストを採ったからあげろ」と言われて喜んでもらい受けたのだが、以後この虫をコクヌストだと思い込んでいた。ヒゲナガゾウムシの珍品だと知ったのは、それから5年も経ってから

のことである。なお、当地は兵庫県で初めて本種が採集された場所でもある。

佐藤邦夫氏が本誌で述べられたように<sup>2)</sup>、本種は低山地に広く分布している種であろう。平地から低山地で、盛夏の夕方から夜間にコナラの新しい倒木に注意することにより、今後各地で記録が増えていくことと思われる。

#### 参考文献

- 1) 永幡嘉之(1994) 但馬における甲虫数種の採集記録, IRATSUME18:56-57.
- 2) 佐藤邦夫(1993) ナガフトヒゲナガゾウムシについて, IRATSUME17:79-80.

## キイロシリブトジョウカイを美方町で採集

永幡 嘉之

キイロシリブトジョウカイ *Yukikoa wittmeri* は、一般に少ない種であるといわれている。但馬では、すでに佐藤(1993)により、扇ノ山山系の温泉町霧ヶ滝での記録が報告されたが、このたび美方町で本種を採集したので報告する。

1 ex., 兵庫県美方郡美方町小代溪谷, 5-VI-1994, 永幡嘉之  
草上に静止していた個体を採集した。

#### 参考文献

佐藤邦夫(1993) キイロシリブトジョウカイを温泉町で採集,  
IRATSUME17:76.

